

長野県の産業天気図

ー 産業別四半期見通し調査結果（2013年1-3月期見通し） ー

◆ 調査対象業種の変更について

- ◇ これまで以上に長野県に特色のある主要産業の動向について精緻な調査、分析を行うことを目的として、今回より対象業種を従来の15業種から19業種へ拡充した。変更した業種は下記の図表のとおり。
- ◇ 「一般機械」、「情報通信機器」、「電子部品・デバイス」の3業種を「工作機械」、「半導体製造装置」、「産業用機器」、「電子部品デバイス」へ細分化した。「精密機器」を「光学・計器」に変更した。また、「食料品製造」を「飲料製造(ノンアルコール)」、「清酒・ワイン」、「味噌」、「その他食料品製造」へ細分化した。
- ◇ 「プラスチック製品」を新設し、「ガソリンスタンド」を削除した。

前回までの主要15業種			今回からの主要19業種	
1	一般機械	}	1	工作機械
2	情報通信機器		2	半導体製造装置
3	電子部品・デバイス		3	産業用機器
4	自動車用部品	→	4	電子部品・デバイス
5	精密機器	→	5	自動車部品
6	食料品製造	→	6	光学・計器
		→	7	プラスチック製品
		→	8	飲料製造(ノンアルコール)
		→	9	清酒・ワイン
		→	10	味噌
		→	11	その他食料品製造
7	機械器具卸	→	12	機械器具卸
8	大型小売	→	13	大型小売
9	自動車販売	→	14	自動車販売
10	ガソリンスタンド	削除		
11	公共工事	→	15	公共工事
12	民間工事	→	16	民間工事
13	旅客	→	17	旅客
14	貨物	→	18	貨物
15	ホテル・旅館	→	19	ホテル・旅館

◆ 今回調査のポイント

県内主要19業種の現況(2012年10-12月期)と見通し(2013年1-3月期)調査を実施した。

◇ **2012年10-12月期の現況**は、全19業種中、『晴れ(好調)』と『薄日(順調)』が該当業種なし、『曇り(普通)』が4業種、『小雨(低調)』が11業種、『雨(不調)』が4業種となった。

➤ 製造業では、企業の設備投資が弱含んでいることや、海外景気の減速などからほとんどの業種で雨模様となった。一方で低燃費車、軽自動車の需要が底堅かった「自動車用部品」や、スマートフォン関連の受注が堅調だった「光学・計器」、即席食品などの販売が堅調だった「その他食料品製造」は『曇り(普通)』となった。

➤ 非製造業では、エコカー補助金が終了したものの、新車および中古車の販売が堅調だった「自動車販売」が『曇り(普通)』となった。一方、その他の業種については『小雨(低調)』または、『雨(不調)』となった。

◇ **2013年1-3月期の見通し**は、全19業種中『晴れ(好調)』と『薄日(順調)』が該当業種なし、『曇り(普通)』が4業種、『小雨(低調)』が11業種、『雨(不調)』が4業種と、10-12月期と同じ天気図となった。

➤ 製造業では引き続き雨模様となる見込み。設備投資の抑制傾向や民生品需要の低迷によって、産業用、民生品用ともに、部品受注は低調な推移となる見通し。自動車関連でも需要は底堅いものの、収益環境は厳しい見込み。一方で足元の円安傾向から、受注や輸出の増加を期待する声も聞かれ、来期(1-3月期)終盤の春先には緩やかながら、持ち直しの動きに転じることが期待される。

➤ 非製造業では、緊急経済対策による公共事業の増加や、消費増税前の住宅取得ニーズの顕在化などによって、新年度にかけて建設関連業種に持ち直しの動きが期待される。また、これまで堅調だった「自動車販売」も、最需要期を迎え引き続き底堅い推移が見込まれる。一方、観光面では、集客イベントが乏しく、観光客数の低迷が懸念される。また、笹子トンネル天井板崩落事故の影響から、輸送コストの増加やスキー客の減少などが懸念され、運輸や宿泊業など観光関連業では引き続き厳しい環境が続く見通し。






◆ 産業別四半期見通し調査結果







































産業天気図	晴れ (好調)	薄日 (順調)	曇り (普通)	小雨 (低調)	雨 (不調)
現況、見通し					
現況 (2012年10-12月期)	0業種	0業種	4業種	11業種	4業種
見通し (2013年1-3月期)	0業種	0業種	4業種	11業種	4業種

長野県の産業天気図 (県内主要19業種の動向)

一 産業別四半期見通し調査結果 (2013年1~3月期見通し) 一

<産業別調査結果>


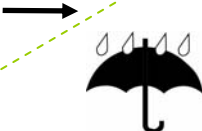
現況 (10-12月期)	天気図記号	19業種中	見通し (1-3月期)	変化方向	19業種中
	 (好調)  (順調)  (普通)  (低調)  (不調)	0業種 0業種 4業種 11業種 4業種		↑ 上昇 ↗ やや上昇 → 横ばい ↘ やや下降 ↓ 下降	0業種 2業種 10業種 7業種 0業種

業種	今期 (10-12月期)	来期 (1-3月期)	業種	今期 (10-12月期)	来期 (1-3月期)	業種	今期 (10-12月期)	来期 (1-3月期)
工作機械		→ 	飲料製造 (ノンアルコール)		→ 	公共工事		↗ 
半導体 製造装置		→ 	清酒・ワイン		→ 	民間工事		↗ 
産業用機器		→ 	味噌		↘ 	旅客		↘ 
電子部品・ デバイス		→ 	その他 食料品製造		↘ 	貨物		↘ 
自動車部品		→ 	機械器具卸		→ 	ホテル・ 旅館		↘ 
光学・計器		→ 	大型小売		↘ 	■調査内容：「業界の現況」、「業界見通し」は、県内対象の企業経営者が業界の景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。 ■調査期間：2012年12月中旬～2013年1月中旬 ■調査対象企業：県内主要企業19業種の166社		
プラスチック 製品		↘ 	自動車販売		→ 			


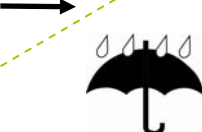
工作機械：国内、海外とも受注は低調に推移する見込み

現況	国内は自動車向けが比較的底堅く推移したものの、その他の用途向けが低迷し、全体として受注が減少した。設備投資は依然として抑制傾向が強い。海外は、米国が自動車や医療向けなどを中心に堅調に推移した。一方、欧州は依然景気が低迷しており、ドイツの自動車向けなど一部を除いて受注が低迷した。中国も景気減速を背景に低迷しており、医療向けなど一部の機械や、産業用ロボットなどが堅調に推移した以外は、全体的に受注が減少している。
見通し	国内は自動車向けが引き続き底堅く推移するものの、それ以外では設備投資マインドが依然として冷え込んでおり、全体として低調に推移する見通し。海外では米国が引き続き自動車や医療向けを中心に堅調に推移すると見込まれる。一方、欧州は一部地域で持ち直しの兆しがみられるものの、これまで堅調だったドイツの自動車向けの受注が弱含んでおり、本格的な回復には時間を要する見通し。中国も当面景気の減速傾向は続くと思われる、医療向けや産業用ロボットなどの一部の機械を除いて、全体として低調に推移する見通し。



半導体製造装置 : 半導体生産低調のため、受注の低調が続く

現況	半導体製造は2012年夏までは好調を維持したが、今期（10-12月期）はその反動で在庫の過剰感が高まり、生産水準が低下した。それを反映して、製造装置への投資も見送られ、受注も低調に推移した。新OSの発売でパソコンの買い替え需要への期待もあったが、買い替えは進んでおらず、半導体需要の増加には結びつかなかった。スマートフォンの需要が好調な一方、それに代替される形でパソコン需要が低迷しており、使われる半導体数が減少している。そのため、台数の出る汎用品製造装置の受注が低迷した。
	
見通し	半導体の在庫調整は続き、製造装置への投資も低迷が続く。在庫調整は2013年の夏頃まで続く見通しで、来期（1-3月期）の受注は低水準にとどまる見込み。加えて、半導体メーカーからの価格引き下げ要請も強まってくる見通し。スマートフォン向けでより積層度の高い半導体を使用する動きがあり、製造装置の引き合い増加が期待される。しかし、開発コストの負担が大きく、実際の受注や売り上げの計上までには時間を要するため、厳しい収益環境が続く見込み。
	


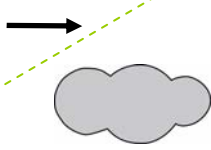
産業用機器 : 設備投資が盛り上がり、受注は低調に推移

現況	業界全体では、自動車や電機メーカーなどで国内、海外ともに設備投資の動きが鈍く、産業用機器の受注は低調な水準にとどまった。製品別にみると、工作機械や産業用ロボット向けなどFA関連機器は弱い動きが続いた。車載関連機器は、中国で日本車の販売台数が落ち込んだため、受注は減少した。住設機器や食品検査機器も中国など海外景気の減速によって受注水準は落ち込んだ。一方、定期的な更新需要があるOA機器や、コスト削減に効果的な省エネ設備は堅調に推移した。
	
見通し	新政権発足後の円安進行などで設備投資が活発化することに期待する声が聞かれる。しかし、海外景気の不透明感が強いと、設備投資が盛り上がるまでには至らず、業界全体の受注水準は低調に推移する見込み。製品別にみると、FA機器など生産設備は国内に加え、景気の減速感がみられる中国を中心に受注は弱い動きが続く見通し。車載関連機器もエコカー補助金終了以降は買い替え需要が一服しており、受注は弱含むとみられる。OA機器や省エネ設備は更新需要などによって引き続き堅調な受注が見込まれる。
	

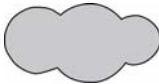
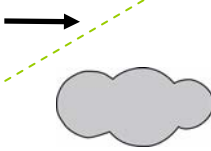
電子部品・デバイス : 民生品の需要低迷から厳しい受注環境が続く

現況	デジタル家電など民生品はクリスマス商戦が盛り上がり、関連する部品受注は低調に推移した。特に半導体関連部品はパソコン需要が落ち込んでいることに加え、スマートフォンやタブレット向けがコストダウン要請による単価の下落が進み、収益性は悪化した。自動車向けは完成車メーカーの国内生産台数が減少傾向にあるため、受注量は落ち込んだ。海外向け受注は米国が堅調だったものの、中国を中心としたアジアや、欧州などで民生品の需要が低調に推移し、全体でも弱い動きとなった。
	
見通し	民生品はパソコンやテレビなどの消費不振が続き、関連する部品受注も引き続き低水準にとどまる見通し。加えて、セットメーカーでは年度末に向けて在庫の削減を進めるため、一段と厳しい受注環境となる見込み。自動車向けはハイブリッド車を中心に緩やかに持ち直すと思われる。業界全体では民生品の需要低迷から厳しい受注環境が続く見込み。しかし、円安進行による輸出の回復に期待する声も聞かれる。加えて、新年度に向けてセットメーカーの新製品投入も活発化することから、春先からの緩やかな持ち直しが期待される。
	


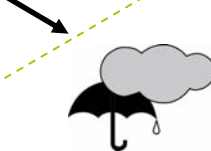
自動車部品 : 低燃費車向け堅調も収益環境厳しい

<p>現況</p>	<p>国内は買い替え需要の一服から全体の部品受注は減少したものの、販売が順調なハイブリッド車や軽自動車などの低燃費車向けは堅調だった。しかし、軽自動車向けは単価の安い部品が多く、収益性は低下した。海外は、市場の回復が続く北米向けが順調に推移したが、中国向けは景気減速などの影響により受注減少がみられた。補修用部品は、国内は中古車全体の販売台数が伸び受注は底堅かった。海外は欧州向けで中国部品メーカーの台頭により価格競争が激化し受注が低迷しているが、メンテナンス需要の高まりから北米向けが堅調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は全体の部品受注が落ち込む中、年度末の需要期を迎え軽自動車など低燃費車向けで底堅い受注が続くとみられるが、収益性の向上は困難な見込み。海外は、北米向けが買い替え需要に支えられ順調に推移する見通し。一方で、中国向けは景気減速などで受注水準が落ち込む見込み。補修用部品は、国内で車検の増加時期となるため、堅調な受注が続く。海外は北米向けが安定的に推移するものの、欧州市場での中国製品との競合が続き低調な見通し。業界全体では低燃費車向けが堅調に推移するも、厳しい収益環境が見込まれる。</p>
	


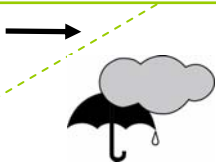
光学・計器 : 高機能カメラ、医療関連向けを中心に堅調推移

<p>現況</p>	<p>デジタルカメラ関連では、一眼レフ、ミラーレスなどの高機能製品が好調を維持した。価格低下の激しいコンパクトカメラ向け部品は採算がとれず、生産を縮小する動きがみられた。スマートフォンのカメラユニットは好調だった。産業用レンズは、半導体関連を中心にした産業機械の需要が弱いため受注低迷が続いた。医療機器用レンズは堅調だった。計器類は、自動車向けが安定していたものの、産業機械、建機向けが伸びずに受注も低迷した。ガス、水道などの住設向けは、底堅い交換需要に支えられ前年並みで推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>デジタルカメラは、引き続き一眼レフなどの高機能製品で好調が期待される。コンパクトカメラからの買い替えが増える見通しだが、価格競争が激しく部品価格の引き下げ要請も強まる見込み。スマートフォン関連では、当面の受注は確保されているものの、メーカー間の競争が厳しく価格低下が続く。産業用レンズでは、引き続き半導体製造装置への投資抑制から受注は低調に推移する見込み。医療用関連は堅調が続く見通し。計器類は、産業機械向けで低調が続くが、自動車向け、住設向けでは底堅く推移するとみられる。</p>
	


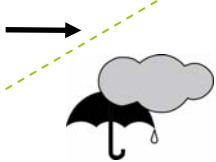
プラスチック製品 : 需要の低迷や価格競争から、厳しい受注環境が続く

<p>現況</p>	<p>自動車関連部品は、エコカー補助金終了により新車販売台数の減少した国内向けや、景気減速のみられた欧州や中国向けで需要の低迷があったものの、市場の回復が続く北米向けが順調だった。OA・情報関連部品は、コピー機向けは国内需要が安定し堅調に推移したが、パソコン向けは完成品の需要低迷から部品受注は落ち込み、スマートフォン向けは安価な海外製品との競争が激化した。容器は中国や東南アジアから輸入される低価格製品との競合により、受注の減少がみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車関連部品は国内や欧州、中国向けで需要の低迷が続くことから、全体では受注は減少傾向だが、北米向けでは安定的に推移する見込み。OA・情報関連部品は、コピー機向けで国内需要が底堅い見通し。パソコン向けは需要の落ち込みから低調な推移が見込まれる。スマートフォン向けは海外製品との価格競争が続く見通し。容器は安価な輸入品との競合が続き、受注は減少する見込み。業界全体では、需要の落ち込みや海外製品との価格競争激化から、厳しい受注環境が続くとみられる。</p>
	


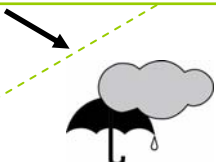
飲料製造(ノンアルコール) : 原材料価格の高騰から、厳しい収益環境は続く

<p>現 況</p>	<p>ミネラルウォーターは年間を通じて需要は底堅く、売り上げは震災後の復旧需要があった前年とほぼ同水準で推移した。炭酸飲料も消費者の健康志向に応えた特定保健用食品を中心に販売数量が伸びた。果実・野菜飲料は消費者の健康志向を受け需要は底堅く、売り上げも堅調に推移した。原料となる果実や野菜が、国内主要産地の生産量減少や、中国産も不作の影響から供給が減少したため、仕入れ価格が上昇し収益が圧迫した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>ミネラルウォーターや炭酸飲料の売り上げは引き続き順調に推移する見通し。果実・野菜飲料は需要が底堅く推移するとみられる。しかし、国産原料が生産農家の減少による供給減で価格が高止まりするほか、中国産原料も同国での需要の高まりや労務費の上昇によって仕入れ価格の上昇が続く見込み。一方、消費者の低価格志向の高まりにより小売からの販売価格の引き下げ要請は強まっており厳しい収益環境が続くとみられる。</p>
	


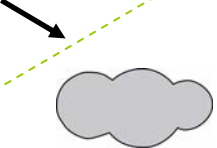
清酒・ワイン : 堅調な家庭用市場に期待するも、厳しい収益環境が続く

<p>現 況</p>	<p>清酒は需要期を迎え、内食志向を受け自宅用に購入される高価格商品や、新商品が好調に推移した。一方、飲食店向けが減少したほか贈答品需要も低迷しており、全体の売り上げは低調に推移した。また、原料となる酒米の価格や、燃料費の上昇により収益は圧迫された。ワインは新酒の出荷時期を迎え、販売数量が前年並みに推移した。清酒同様に家庭向け商品の需要が底堅く推移し、全体の売り上げを下支えした。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清酒は高価格商品の需要が底堅く推移するとみられ、売り上げは前年とほぼ同水準で推移する見通し。しかし、酒米の価格が高止まりするとみられるほか、包装資材等の価格も上昇傾向にあるため厳しい収益環境が続く見込み。ワインは新酒が出回る時期に比べると需要の盛り上がりには欠けるものの、新製品の投入などにより家庭用市場を中心に売り上げは前年並みとなる見通し。清酒・ワイン全体では内食志向から家庭向け商品が堅調なものの、原材料価格の上昇などによって厳しい収益環境が続く見込み。</p>
	


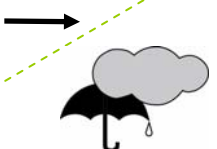
味噌 : 新商品投入に期待するも、原材料価格上昇が懸念される

<p>現 況</p>	<p>生味噌の販売は引き続き低調だが、即席味噌や糀関連製品の販売が好調なことから売り上げは前年とほぼ同水準を維持した。糀関連製品では、レシピの提案や自社製品を使ったメニューの提供などの販売促進により、売り上げ、販売数量ともに伸びがみられた。大豆をはじめ、加工米や塩などの原材料価格が高止まりするなか、味噌の消費低迷や消費者の低価格志向から生味噌を中心に価格競争が激化しており、厳しい収益環境が続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>生味噌の販売は低調に推移するとみられるが、好調な即席味噌や糀関連製品で新製品を投入し需要を喚起していく。糀関連製品は家庭向けに調理方法を提案していくほか、消費機会を増やす取り組みを進める。原材料では大豆で円安による仕入れ価格上昇が予想される。加工米は供給量が少なく、仕入れ価格が上昇していることから、調達不足が懸念される。原材料価格の上昇が懸念される一方、生味噌の価格競争による販売価格の下落が止まらず、収益はさらに圧迫する見通し。</p>
	


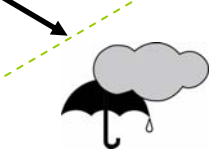
その他食料品製造 : 製造コスト増加による収益の悪化が懸念される

<p>現 況</p>	<p>製粉はそばの年末の需要が低迷したものの、販売数量は前年同期に比べ増加し、仕入れ価格の落ち着きから収益は改善した。即席食品は売り上げが前年に比べ増加したが、大豆や小麦などの原材料価格の高止まりにより収益に改善はみられなかった。漬物は笹子トンネル天井板崩落事故の影響による観光客の減少から土産用商品の売り上げが落ち込んだ。引き続き、消費者の低価格志向による小売からの販売価格引き下げ要請は強まっており、原材料価格の上昇分を販売価格へ転嫁できず収益環境は厳しかった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>製粉はそばの売り上げが前年と同水準で推移し、前期と同程度の利幅が確保される見通し。即席食品は春の新商品により需要を喚起するとみられる。漬物の売り上げは前年と同水準で推移すると見込みだが、原料となる野菜や調味料の仕入れ価格の上昇から収益の悪化が懸念される。全般的に販売は堅調に推移するとみられるが、大豆や食用油をはじめとする原材料の仕入れ価格の高止まりに加え、燃料費の上昇から製造コストの増加が懸念される。</p>
	


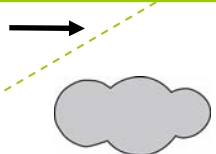
機械器具卸 : 設備投資の抑制傾向続くも、改修案件の増加に期待

<p>現 況</p>	<p>工作機械の受注は自動車向けが比較的底堅いほかは全般的に減少している。工場の操業低下から工具類の受注が減少した。企業の設備投資は全体として抑制傾向が続いているものの、工場や事務所などの改修案件が動き出しており、配線機器や分電盤などの電設資材に加え、建材の受注が増加している。省エネのためのLED照明の引き合いは堅調であるほか、太陽光発電設備の受注は、買取価格改定をにらんだ駆け込み需要もあり、依然好調に推移している。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>工作機械は自動車関連向けの受注が引続き底堅いほかは、全般的に低調に推移する。設備投資案件は抑制傾向が続くとみられるが、配線機器や分電盤などの電設資材は、工場や事務所の改修案件が引き続き出てくる見込みで、受注増加が期待できる。省エネ機器は工場や住宅向けのLED照明の堅調な受注が見込まれる。太陽光発電設備は引き続き好調に推移する見込み。建材や配管などの住宅関連資材は、住宅新築やリフォームの消費増税前の駆け込み需要から引き合いが出てきており、受注増加が期待される。</p>
	


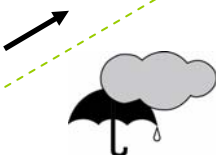
大型小売 : 売り上げの低迷や価格競争の激化から、収益環境の厳しさ続く

<p>現 況</p>	<p>百貨店では、10月中旬まで気温の高い日が続き、秋冬物衣料の出足が遅れた。また、来店客数の減少などによる影響もあり、衣料品、食料品ともに低調だった。一方、産地直送品などの歳暮ギフトは、ほぼ前年並みの売り上げを維持した。スーパーでは、内食・中食の傾向は依然として強いことから、生鮮食品をはじめとして、総菜なども堅調に推移した。また、昨年ほどの節電需要はなかったものの、機能性肌着などの防寒衣料は気温の低下に伴い販売が増加した。スーパー全体では、ほぼ前年水準の売り上げとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店では、天候に恵まれた初売りは来店客も多く、福袋などの売り上げは順調となった。既に始まったクリアランスセールや、新たな催事で一定の集客を見込んでいるが、所得環境は依然として厳しい状態にあり、売り上げは低迷することが予想される。スーパーでは、食料品を中心とした生活必需品は堅調に推移するとみられるが、春以降県内の新規出店が予定されている地域もあり、競合店との価格競争はさらに激しくなることが懸念される。収益環境は今後も厳しさが続く見通し。</p>
	


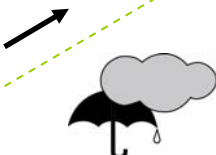
自動車販売 : 需要期を迎え低燃費車を中心に堅調推移

現況	エコカー補助金終了や買い替え需要の一服により、10-12月期の県内の新車全体の売り上げは前期(7-9月期)に比べ減少した。ハイブリッド車や軽自動車などの低燃費車は堅調に推移したが、利益率の高い大型車種は落ち込みが続き、収益環境は悪化した。輸入車は各社の年末の販売促進などによりブランド力の高い高級車種が堅調だった。中古車は、新車需要の落ち込みで市場へ流通する下取り車が減少し、良質な車両を中心に価格の上昇がみられた。しかし低燃費車を中心に底堅く推移し前年同期を上回る販売台数となった。
	
見通し	年度末の最需要期を迎え、低燃費車を中心に堅調に推移する見込み。また、車検を迎える既存顧客も多いため、各社は早期DMなどによりフォローを充実させるなど、他社への流失防止や来店誘致に注力して販売促進を図るとみられる。輸入車はニューモデル車種が堅調な見通しだが、年末からの反動減が懸念される。中古車は良質な車両の価格上昇傾向は続くともみられるが、需要の高まりから販売への影響は少ないとみられる。新車、中古車全体では年度末で新社会人などの購入機会も増え、販売台数の増加が期待される。
	


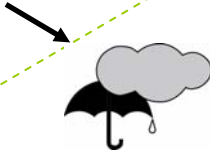
公共工事 : 工事量は増加するも、人手不足が懸念される

現況	今期(10-12月期)の公共工事量は、土木工事が減少したものの、庁舎・病院などの建築工事は堅調であり、全体としては前年並みの水準となった。発注者別にみると、国、県は概ね前年並みの水準で推移したが、市町村では工事量、件数がともに減少した。赤字国債法案の成立が11月にずれ込み、地方交付税の支払いが遅延したため、一部の市町村で予算執行が抑制されたとみられる。労務費・原材料費に大きな変化はなかったが、競争は激しく受注環境は厳しい状況が続いた。また、工事量が復調した年末にかけ人手不足感が強まった。
	
見通し	新政権による大型補正予算成立後、工事量は増加傾向で推移するとみられるが、本格的な工事の増加は新年度以降となる見通し。老朽化した道路・トンネルの点検・補修等に重点的に予算が配分されるとみられ、新年度にかけて土木工事の増加が期待される。また、耐震改修工事なども増加が見込まれる。公共工事を取り巻く環境は大きく転換するとみられるが、構造的な人手不足が続き、工事量の急激な増加に建設業者が対応できない事態が懸念される。また、労務費・原材料費は上昇する可能性が高く、収益を下押しする見通し。
	


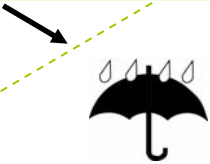
民間工事 : 設備投資は低調も、住宅は駆け込み需要に期待

現況	民間企業の設備投資は、介護施設や病院等で新設・改修工事が増加したが、製造業を中心に慎重姿勢が継続し全体の工事量は低調に推移した。新設住宅については、消費増税による駆け込み需要の発生が予想されたが、着工戸数は前年をやや上回る水準にとどまった。衆議院解散等により増税後の負担軽減策が示されず、住宅取得の動きは広まらなかった。リフォーム工事は引き続き堅調に推移しているが、太陽光発電の設置工事は参入企業が増加したため、価格競争が激化した。
	
見通し	民間企業の設備投資は、足元で円安・株高が進行しているものの、工事を伴う大型投資が短期間のうちに増加することは期待できず、受注環境の好転には至らない見通し。新設住宅については、新たな住宅取得支援策や増税後の負担軽減策が明らかになりつつあり、駆け込み需要による着工戸数の増加が期待される。リフォーム工事についても、引き合いが増えるともみられる。期間の後半は住宅関連工事と公共工事がともに増加するため、人員の確保が課題となる見通し。
	


旅客：利用者の動きは鈍く、受注は低調に推移

現況	観光バスは、10月に日帰りツアー等の貸切受注が増加したが、修学旅行では昨年みられた東北からの振り替え受注が減少し前年並みとなった。高速バスは、11月まで安定推移していたが、12月の笹子トンネル天井板崩落事故の影響を受け、中南信地域では年末の利用者が落ち込んだ。タクシーは、山岳地域での利用客が前年より増加したが、市街地では降雪時を除いて利用が伸びなかった。忘年会シーズンながら、衆議院選挙に伴い会議等が自粛されるなど、夜間の利用は低調だった。
	
見通し	観光バスは、スキーバスの受注で前年並みの利用を期待するが、昨年4月の関越道バス事故の影響で夜行利用が控えられ、全体では低調を見込む。高速バスでは帰省や受験生の利用を前年並みに見込むが、中南信地域では2月後半に見込まれる笹子トンネル全線開通まで利用者減少が懸念される。タクシーは、降雪に伴う利用も期待されるが、単価の高い夜間利用が控えられる動きも目立ち、売り上げは伸び悩む見通し。燃料価格は高値圏での推移が続き、収益状況は厳しい見込み。
	

貨物：貨物量の低迷と燃料価格の高値推移を懸念

現況	貨物量全体は、例年に比べて少ない荷動きとなった。自動車部品は、エコカー補助金の終了や中国向けの需要の落ち込みにより減少した。機械関連の受注は、減速する中国経済の影響で、輸出向けを中心に落ち込んだ。食品、飲料は、年末にかけて貨物量は増えたが、通期では例年並みとなった。笹子トンネル天井板崩落事故の影響として、関越道などへの迂回による輸送コストの増加がみられた。燃料価格は、高値水準で推移したが、運賃の値下げ圧力の強まりから価格転嫁は難しく、厳しい収益環境となった。
	
見通し	自動車部品は、国内、中国向けを中心に、依然として低水準にとどまる見通し。機械関連は、景気の減速感がみられる中国向けを中心に、低迷が見込まれる。食品、飲料は継続的な受注はあるものの、例年並みの荷動きとなる見通し。青果物は季節的要因から取扱量が減少する見込み。3月に個人の引越し受注や家電製品の荷動きの増加が期待されるが、全体の貨物量は低調に推移すると見込まれる。燃料価格は高値での推移が予想され、引き続き厳しい収益環境が懸念される。
	

ホテル・旅館：旅行需要に乏しく、低調推移を見込む

現況	都市部のホテルでは、個人客・団体客ともに宿泊利用は前年並みを維持した。忘年会シーズンだったが、衆議院選挙の影響で会議等が自粛され、宴会利用は低調に推移した。観光地の旅館では、団体客の減少により、宿泊利用が伸びず低調だった。白馬、志賀高原をはじめとするスキー場では、例年より早い降雪のため、家族層を中心にスキー利用客の宿泊が好調だった。笹子トンネル天井板崩落事故の影響で、中南信地域では宿泊予約のキャンセルが生じており、関東地域からの観光客が減少した。
	
見通し	都市部のホテルでは、オフシーズンとなるが、個人客・団体客ともに前年並みの集客を確保できる見通し。新年会利用は前年並みで推移するが、消費者の節約志向により、客単価の低下が見込まれる。観光地の旅館では、イベントに乏しく、低調に推移する見込み。予約状況が鈍いため、旅行代理店への営業に注力し、宿泊料金を下げて稼働率を確保するとみられる。外国人観光客は、スキー利用を中心に、前年より増加する見通し。燃料や野菜等食材の価格が高騰しており、収益状況の悪化が懸念される。
